様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：１７７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３８１２１４

研究課題名（和文）子どもの感性をひらく音楽教育に関する実践的研究　－スイスの教育からの示唆－

研究課題名（英文）Practical Study on Music Education to Arouse Children's Artistic Sensibility: Inspired by a Swiss Education Program

研究代表者
今　由佳里（KON, Yukari）

鹿児島大学・法文教育学域教育学系・准教授

研究者番号：４０４４０８３８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：小学校における音楽教育は、専門家を育てるための教育とは性格が異なり、子どもの感性をひらき・ひきだす学習が肝要となる。本研究では、スイス・ジュネーヴ州公立小学校における音楽授業のあり方から、子どもの感性をひらき・ひきだす音楽学習の内容とその有効性について明らかにし、日本の学校音楽教育適用への可能性を探った。なお調査では、ジュネーヴ州内7つの公立小学校を訪問して100時間を超える授業を観察するとともに、音楽・リトミック専科教員へのインタビューもあわせて実施し、理論と実践の両側面から感性をひらく音楽授業のあり方について検討した。

研究成果の概要（英文）：Music education in primary schools is different from that undertaken by those aspiring to become professional musicians in that it aims to arouse children’s artistic sensibility. The current study determines the type of music education that arouses children’s artistic sensibility and the effectiveness of such a music education program. Data were collected by observing music classes in public primary schools in the Canton of Geneva, Switzerland. Moreover, the study investigated the possibility of implementing a similar music education program in Japanese schools.

研究分野：音楽教育

キーワード：音楽教育　小学校　感性　スイス　リトミック

## １．研究開始当初の背景

本研究は日本ではこれまで調査されていなかったジュネーヴ州公立小学校における音楽教育の実態を調査し，子どもの感性をひらき・ひきだす音楽教育について身体の動きと関連した学習から検討し，日本の学校音楽教育に適用する可能性を探っていく。

スイス・フランス語圏の音楽教育に関する研究は，研究従事者がこれまで教育制度，カリキュラム及び公立小学校における音楽授業の分析・考察など一連の研究を行ってきた。これまでの研究をまとめると，フランス語圏の音楽教育の特徴は歌や楽器を演奏するだけにとどまらず，身体を通した音楽表現，効果的な声による表現，絵画やグラフィックから音を読み取り表現する活動など，音楽学習へ総合的なアプローチがなされていることが明らかとなった。このような自由な音楽表現活動を通して子どもたちの感性と発想を豊かにし，音楽表現力を育成しているのである。

スイス・フランス語圏の州都であるジュネーヴ州の学校音楽教育の大きな特徴は，総合的なアプローチのなかでもとりわけ音楽と身体の動きの関係，リトミックを多用した音楽学習にある。この地は，リトミック教育を行ったジャック・ダルクローズ（Émile Jaques-Dalcroze, 1865－ 1950）が教鞭をとった地であるため，彼の音楽教育思想はプライベートな音楽教育機関のみならずジュネーヴ州の学校音楽教育にも大きな影響を与えており，音楽科の授業ではリトミックが教育の主要な内容として含まれている。ジュネーヴ州の多くの小学校では，4 年生まで身体の動きを積極的に取り入れた音楽活動を公立学校において展開し，子どもたちの音楽的感性を刺激しているのである。小学校には，“ Salle de Rythmique ”と呼ばれるリトミック授業のための専用教室がおかれ，音楽専科教員と同様にリトミック専科教員が常勤し，州の公教育課には「音楽・リトミック科」というセクションが置かれている。リトミックについては，日本において非常に親しまれている音楽教育メソッドのひとつであり，これまで幼児教育やプライベートな教育機関におけるリトミック教育については重点的に研究がなされてきた。しかしながら，一般教育である公立小学校における導入と展開の方法について，特にスイスの事例を用いた検討はなされていない。それでは，リトミックを小学校に適用する場合いかなる効果が認められるのであろうか。ジュネーヴの小学校でリトミック専科教員を務めていたセシール・ポーリンは，小学校におけるリトミックの役割について①発見の力をつけること，②音楽と動きの関係を知ること，③記憶力を伸ばすこと，④創造，即興の力をつけること，⑤社会性を養うこと，という 5 点を挙げている。

## ２．研究の目的

小学校における音楽教育は，専門家を育てるための教育とは性格が異なり，子どもの感性をひらき・ひきだす学習が肝要となる。スイスの授業を参観すると，音楽以外の芸術分野から音楽学習に総合的にアプローチし，子どもの感性を刺激する音楽教育がなされていることに気づかされる。授業では音の動きをシフォンの布やリボンを用いて身体表現したり，グラフィックによる音楽表現，絵画に描かれている人物から発せられている声の即興的表現，パントマイム，形と音のコントラストなど音楽以外の芸術分野からアプローチし，様々な感性を刺激する学習が展開されているのである。ジュネーヴでは，とりわけ身体の動きを積極的に授業に取り入れた学習が展開されている。これらの活動は小学校低・中学年に多く見られ，子どもたちの心にいわゆる「音楽の種を蒔く」学習となるよう工夫がなされている。

本研究では，スイス・ジュネーヴ州公立小学校における音楽科授業のあり方から，子どもの感性をひらき・ひきだす音楽学習の内容とその有効性について明らかにし，日本の学校音楽教育適用への可能性を探ることを目的としている。

## ３．研究の方法

研究方法は，スイス・ジュネーヴ州（Canton de Genève）の小学校で行われている音楽・リトミックの授業を観察し，その授業分析を通して音楽教育の特徴と効果を検証する。さらにその研究成果を基に，日本における指導法及び指導プログラムを開発し，その導入の可能性を探る。

## ４．研究成果

本研究により，感性をひらく音楽教育のあり方について，音楽と身体の動きの関係から様々な知見を得ることができた。それらの研究成果については，以下にまとめる。

音楽と感性を結びつけて教育に活かす方法を模索するため，1990 年に出版された SIMONNE MARQUE, *Musique et mouvement à l'école* で取り上げられている小学校で行われた身体の動きを取り入れた音楽聴取の有効性に関する実践記録を基にその有効性を考察し，感性と音楽の教育について検討を進めた。教育とは，子どもの持つ可能性を引き出すことであるということは言うまでもないが，本書の実践を顧みると子どもたちの意見から，動きを伴った実践が有効に作用していることが理解できる。本書の中で触れられている動きを伴った聴取特有の効果に関して，子どもの記述内容から①自分自身との出会いや発見がある，②夢みたいな心地よい気分を味わえる，③集中力を高める方法を得られる，④聴く力の伸長，⑤音楽の変化を感受する力の獲得，⑥想像力の伸長，⑦音楽と遊ぶ

方法の獲得，⑧何かができるようになったと感じられる，という８点が挙げられる。
本書は子どもたちの発言を多く記載していたが，彼らの発言内容の豊かさには目を見張るものがある。本書で解明された身体の動きを取り入れた音楽聴取の有効性を基に，日本の音楽学習の中で如何に展開していくかについて考えていくための多くの示唆を得られた。

本研究では，ジュネーヴ州内の公立小学校を訪問して100時間を超える授業を観察するとともに，音楽・リトミック専科教員へのインタビュー調査もあわせて実施した。
授業調査では，ジュネーヴ州内の７つの公立小学校において音楽・リトミック科の授業を観察した。スイスの授業を参観すると，音楽以外の芸術分野から音楽学習に総合的にアプローチし，子どもの五感を刺激する音楽教育がなされていることについては既に述べているところであるが，ジュネーヴでは，身体の動きが聴覚の助けになることを特に重視して音楽教育を実施している。すなわち，音楽の全ての要素（音感・リズム感・拍子感・強弱・ニュアンスなど）を，身体を動かす経験を通して感じ取ることによって，子どもたちは音楽内容を効果的に学習していくのである。また，身体の動きから音楽を学ぶことによって，子どもたちは集中力，記憶力，反応力，反射性，想像力，及び創造力を高められる効果が認められており，このことは日本の学校音楽教育における展開の意義を有しているのではなかろうかと考察された。
調査校のひとつであるマイユ小学校では，Specialと呼ばれる6歳から11歳児が在籍する特別クラスの授業も観察させていただいた。このクラスは，両親ともに移民でフランス語が話せない等の家庭に問題がある児童，多動児，軽度学習障害がある児童が在籍している。本授業では，木の葉が舞い落ちる様子を，音楽にあわせて身体表現することから始められている。後半は，アルファベットや果物の「形」を音楽の変化を聴き分けて瞬時に身体で反応する活動を行っている。
今回観察した授業では，秋という季節に関連した教材が選択され，身体表現も秋に関連するものを中心に取り上げており，子どもたちの生活と密着した季節感を重視した教材を選択している。授業で使用した楽曲は，リトミックの授業で使用するために特別に作曲されたものであった。楽曲は，２拍子と３拍子が交互に現れたり，転調したりするという工夫がなされている。授業では，子どもたちが，音に対して瞬時に反応することが求められている場面を多く確認した。
また，季節の果物という身近なテーマを取り上げて，果物のフォルムを身体で表現するなど，対象のイメージを自らの身体を通して膨らませていたこともわかる。ぶどうの房を表現するという課題では，一人ひとりが体を丸めて自分たちが葡萄の粒になり，クラス全員が一所に集まることによって葡萄の房を表現する姿も見られた。他者と協力して何かをつくりだし表現することを自然に行っていたのである。授業の導入では，「今日は寒いね」という教師の問いかけから，子どもたちへ手をあたためるためには，どのような所作をするかについてアイディアを出させ，その所作を音楽に合わせて表現させている。さらに，音楽に反応して身体の動きを取り入れながら歩くという活動では，子どもたちが次々とアイディアを発表し，全員集中して積極的に授業に参加していた。
特別な支援を要するクラスにおけるリトミックの授業は，身体の動きを通して音楽を捉えさせるとともに，子どもたちへ発見の力や創造・即興の力を養い，さらには人とのコミュニケーションの取り方や社会性を身につける上でも効果があることが認められた。
音楽活動に身体の動きを取り入れることによって，子どもが本来備えている感性に自ら気づき，また自らの表現の可能性を感じることができることが本研究によって明らかにされ，現代の日本の教育に必要な方法ではなかろうかという示唆を得られた。

本調査を通して，ジュネーヴ州では歌唱・器楽・鑑賞という領域を分化して教育するのではなく，歌を歌いながら身体を動かす，鑑賞した音楽にコレグラフィーする，音楽に合わせてパントマイムする，絵画に描かれている人物から発せられている声や言葉を想像して自らの声で即興表現するなど，音楽のみならず様々な芸術分野から子どもたちの感性を刺激して授業が行われている実態が明らかとなった。このような芸術総合的なアプローチによる教育によって，スイスでは子どもの感性をひらき・ひきだす学習へと展開していることがわかった。そして，このような芸術総合的なアプローチによる教育を日本の学校音楽教育へ取り入れることは，子どもたちが音楽への興味関心を増幅させることに繋がり，また同時に音楽を生涯に亘って愛好するきっかけをつくり，教育的に有効であることが理解できた。

なお，研究最終年度までに発表できなかった研究成果については，今後随時学会で発表し，論文にまとめていく予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）
①今由佳里，「特別な支援を要するクラスにおけるリトミック授業　－ジュネーヴ州公立小学校における事例－」『鹿児島大学教育学部研究紀要教育科学編』第67巻，pp.35-41（2016）査読無

②今由佳里,「地域の音楽振興を目指した大学生の取組みとアート・マネジメント能力－音楽を専門としない学生によるミュージカル公演開催までの軌跡をとおして－」『関西楽理研究』Vol.27，pp.113-123（2015），査読有

③今由佳里，長谷川理子「*Musique et mouvement à l'écol*e における「動き」を取り入れた聴取の有効性に関する一考察 ―フランスにおける感性と音楽の教育―」『鹿児島大学教育学部教育実践紀要』第 24 巻，pp.335-345 (2015)，査読無

〔学会発表〕（計３件）

① Yukari KON, The Effects of Elementary School Music Classes Incorporating Movement, 10th Asia-Pacific Symposium on Music Education Research / Arts Education Conference, 2015 年 7 月 12 日, Hong Kong（中華人民共和国）

②今由佳里,「身体の動き」を取り入れた音楽学習に関する一考察 ―ジュネーヴ州公立小学校における授業からの示唆―，日本音楽教育学会第 45 回大会，2014 年 10 月 26 日，聖心女子大学（東京都・渋谷区）

③Yukari KON, A learning of musical expression in elementary school, 9th Asia-Pacific Symposium on Music Education Research / Arts Education Conference, 2013 年 7 月 17 日，Singapore（シンガポール共和国）

６．研究組織

(1)研究代表者

今　由佳里（KON，Yukari ）

鹿児島大学・法文教育学域教育学系・准教授

研究者番号：40440838